

# 2003年度決算 & 会社説明会

夢と未来を技術でひらく

**航空電子**

 日本航空電子工業株式会社

2004年5月14日

取締役社長 篠崎雅美

6807

## Agenda

### **.03年度決算ハイライト**

- 1. 損益、主要セグメント**
- 2. 主要資産・経営指標**
- 3. 成果の要因**
- 4. 03年度ヒックス**

### **.04年度及び今後の計画**

- 1. 基本方針**
- 2. 04年度業績予想**
- 3. 事業別戦略**

# . 03年度決算ハイライト

## 1. Market好転をキャッチ、2年連続の 増収・増益を勝取り増配へ

(1) 全社売上、営業・経常・純利益

(2) 事業別売上、営業利益

(3) 海外売上

(4) 事業別セグメント別売上

# 1-(1).売上、営業・經常・純利益(連結)

(単位:億円)

年度	2002	前年比	2003	前年比
売上	1056	103%	1136	108%
営業利益 (率)	65.9 (6.2%)	126%	100.8 (8.9%)	153%
經常利益 (率)	49.6 (4.7%)	132%	72.1 (6.3%)	145%
純利益 (率)	26.6 (2.5%)	127%	43.2 (3.8%)	162%

(為替レート/円平均) (1 \$ = 121.98円)

(1 \$ = 113.19円)

# 1-(2).事業別売上、営業利益(連結)

(単位:億円)

2003年度	売上	前年比	営業利益 (率)	前年比 (増減)
コネクタ	816	114%	124.8 (15.3%)	129% (+1.8%)
システム	153	84%	5.5 (3.6%)	90% (+0.2%)
航機	150	106%	15.6 (10.4%)	138% (+2.5%)
その他	17	106%	-5.1	-
配賦不能費			-40	
計	1136	108%	100.8	153%

# 1-(3).海外売上

(単位:億円)

事業 \ 年度	2002	2003	前年比 (増減)
コネクタ (売上比率)	259 (36.2%)	306 (37.5%)	<b>118%</b> (+1.3%)
システム機器 (売上比率)	44 (24.0%)	35 (23.3%)	<b>81%</b> (-0.7%)
航機他	16	16	100%
<b>海外売上計 (売上比率)</b>	<b>319 (30.2%)</b>	<b>357 (31.5%)</b>	<b>112%</b> <b>(+1.3%)</b>

# 1-(4).事業別セグメント別売上

(4)-1.

# コネク主要市場セグメント別売上(連結)

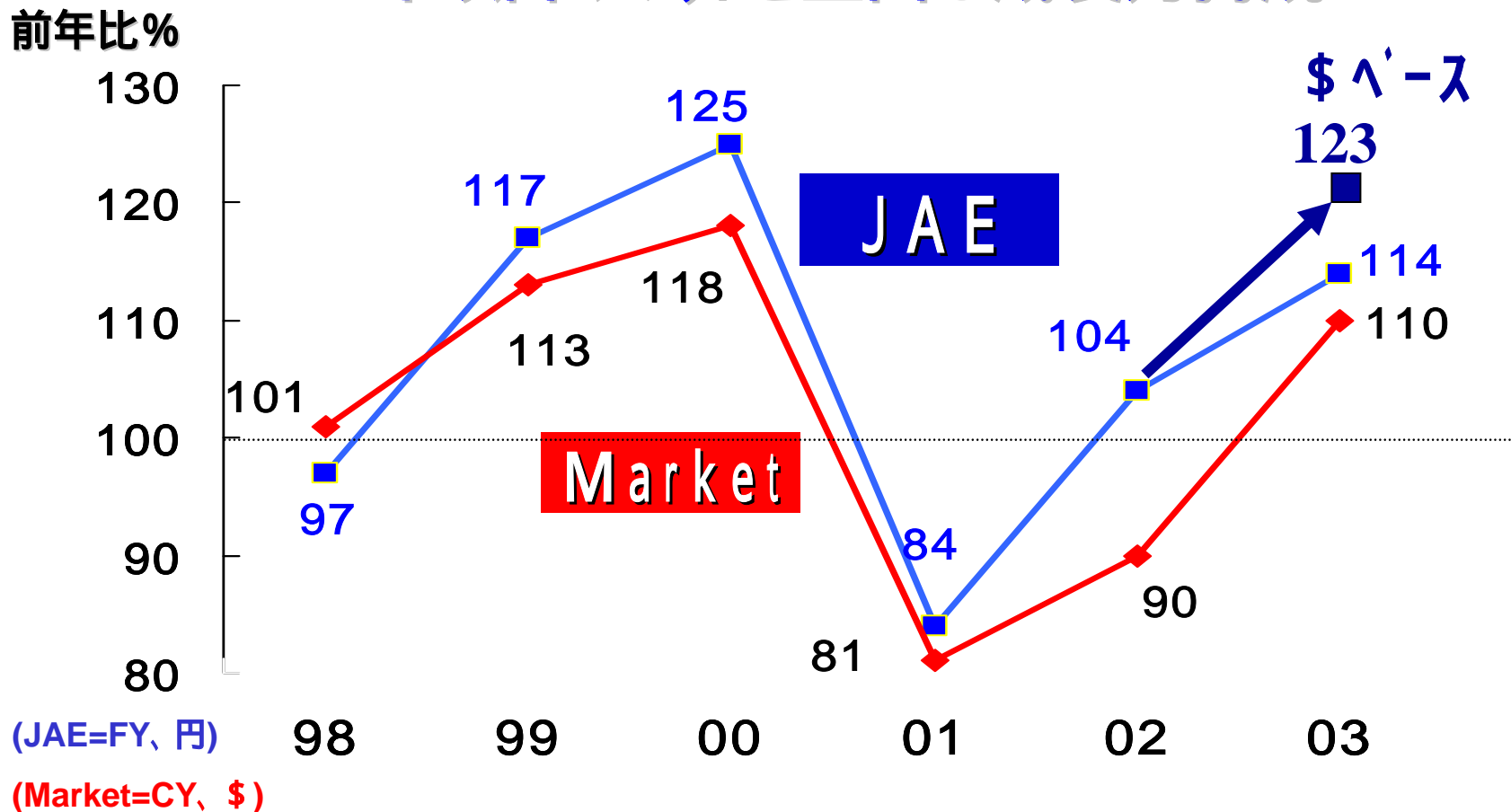
(単位:億円)

市場 \ 年度	2002	2003	増減	前年比
情報	219	262	+43	120%
通信	150	185	+35	123%
民生	46	59	+13	128%
自動車	135	138	+3	102%
産機	79	91	+12	115%
コネク計	716	816	+100	114%

(4)-2.

# コネクタ市場 vs 当社の成長力比較

## 99年以降マーケットを上回る成長力持続



(出典) Bishop Report 2004 / 1

(4)-3.

## システム機器・航機セグメント別売上(連結)

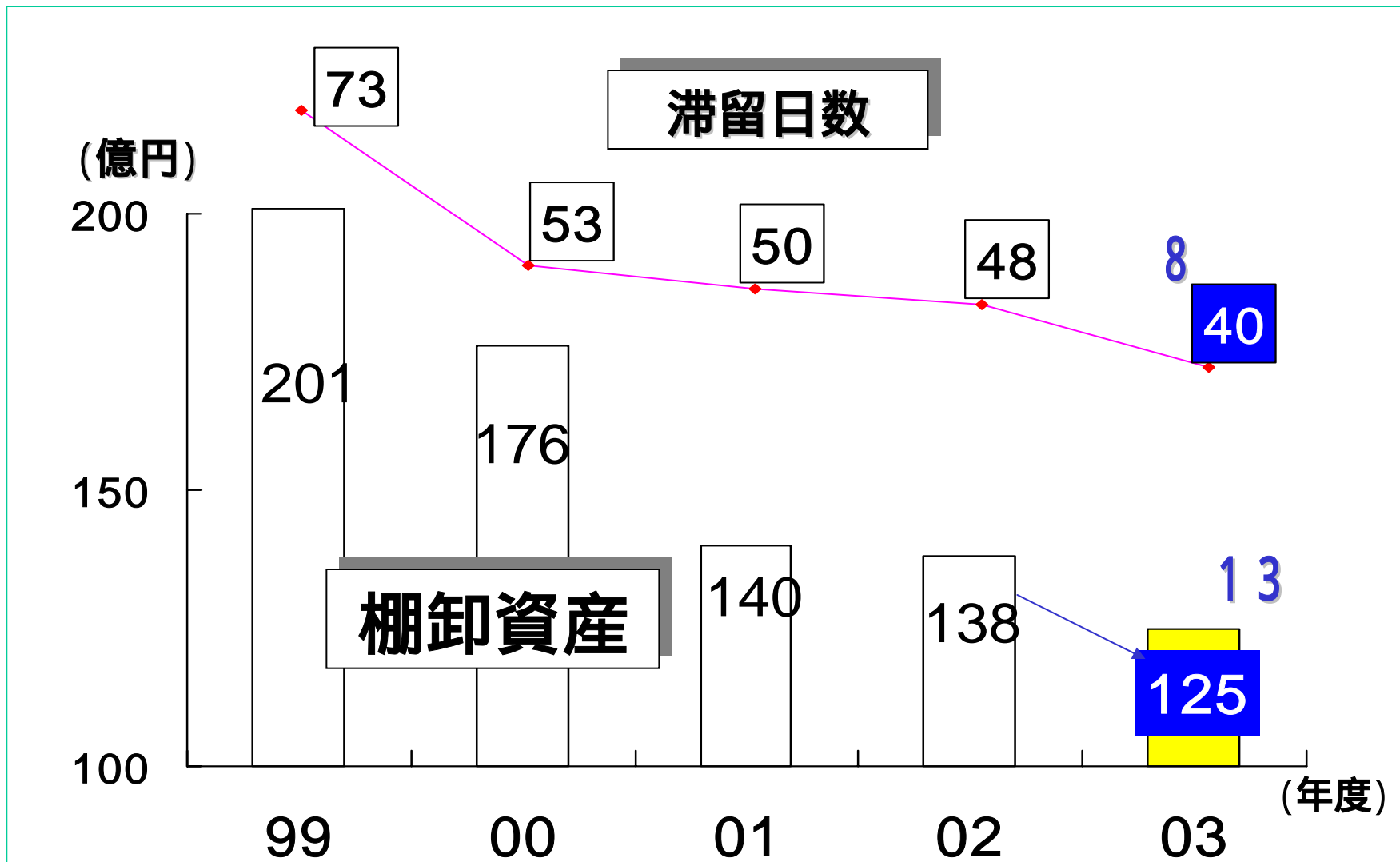
年度	2002	2003	増減	前年比
<b>システム機器</b>	183	153	-30	84%
入力デバイス	23	47	+24	204%
液晶基板組立 (液晶モジュール組立)	103 (27)	43	-60	42%
I/F機器	57	63	+6	111%
<b>航機</b>	141	150	+9	106%
防衛・宇宙	99	100	+1	101%
産業機器	42	50	+8	119%

## 2. 主要資産・経営指標

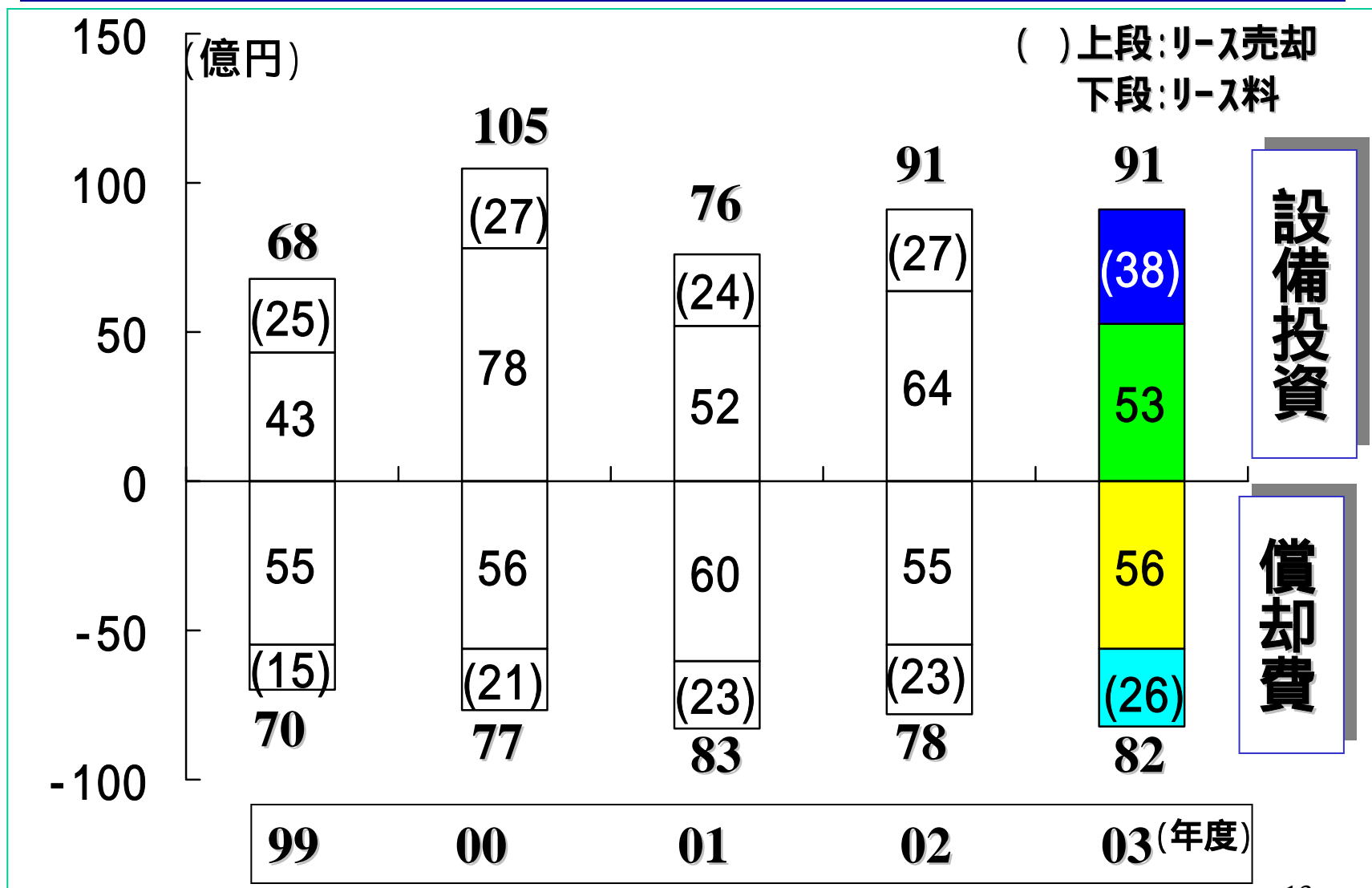
### 資産効率化、経営指標の改善進展

- (1) 棚卸資産
- (2) 設備投資
- (3) FCF
- (4) 借入金
- (5) 総資本回転率
- (6) ROE

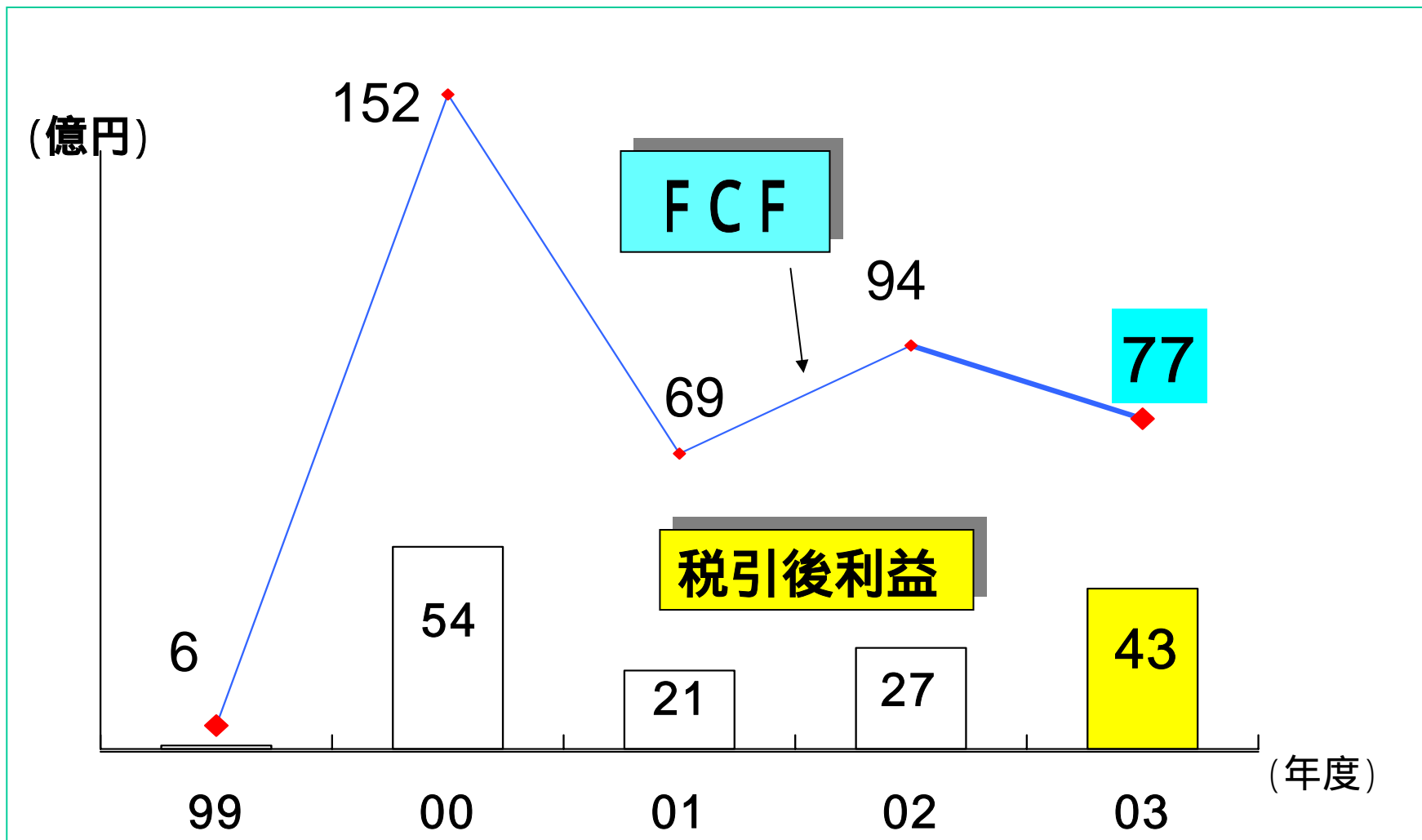
# 2-(1).資産効率化進展(連結)



# 2-(2).成長・競争力強化投資継続(連結)

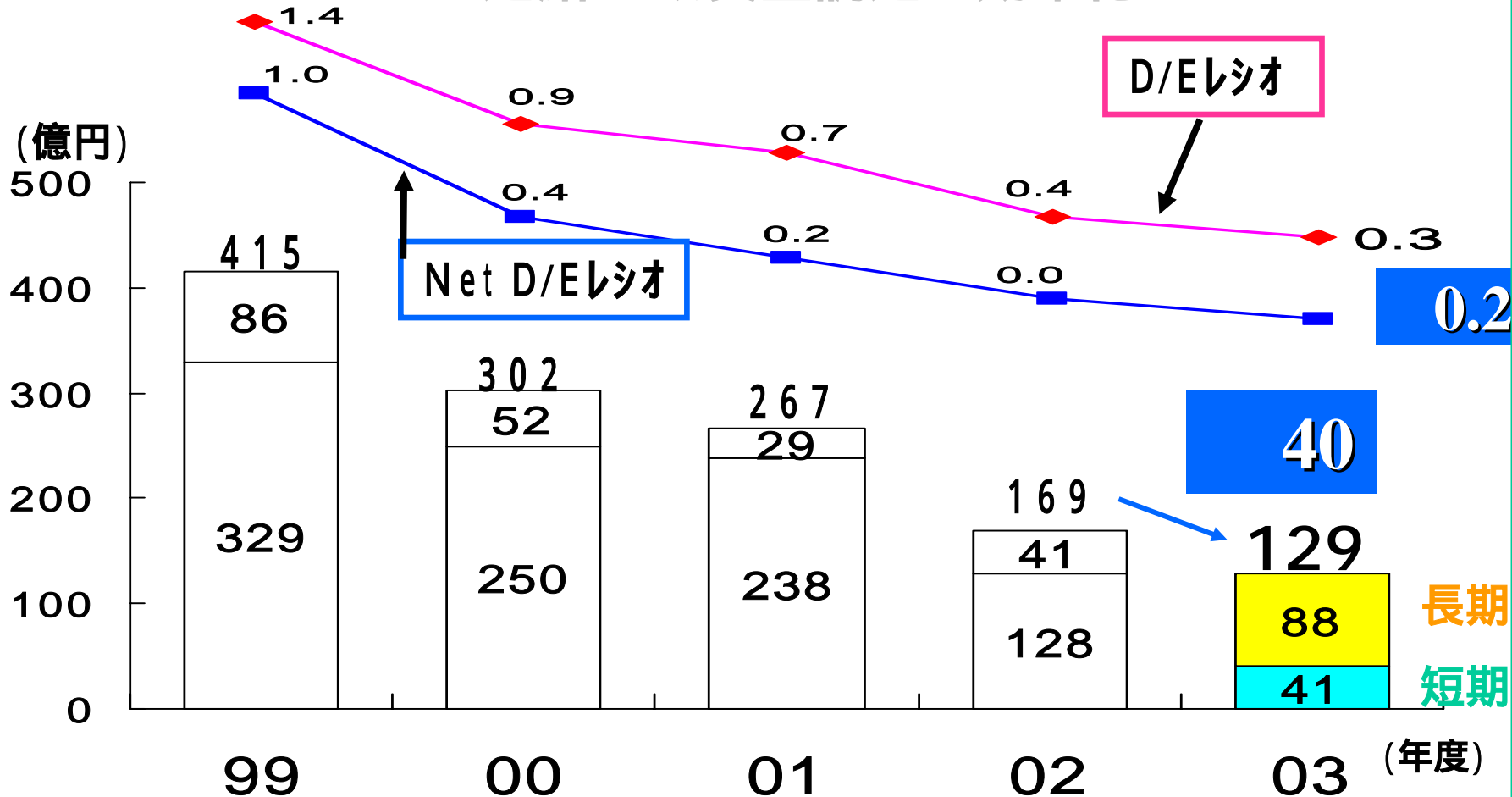


## 2-(3). FCF (連結)

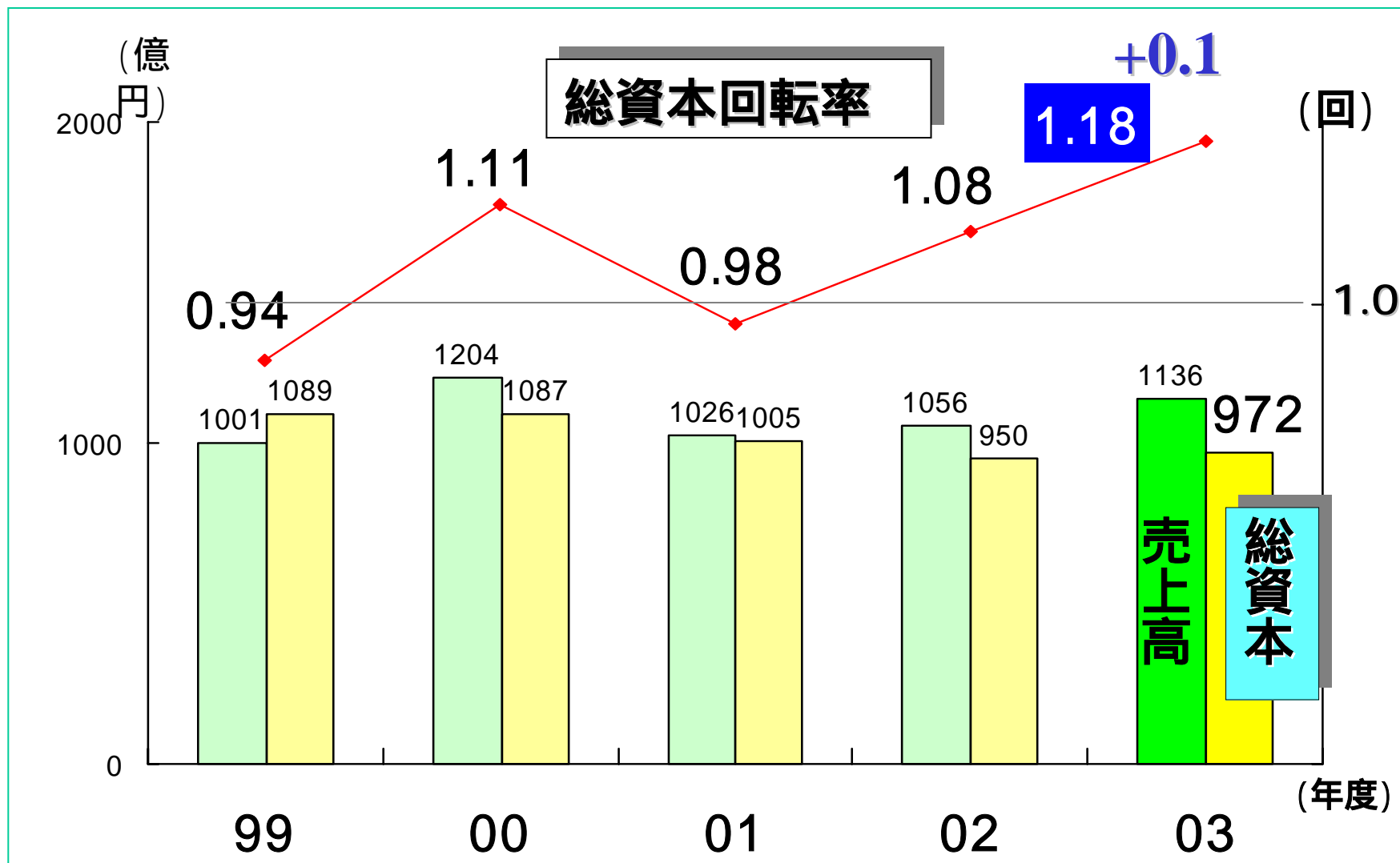


# 2-(4).借入金(連結)

新たな財務戦略:コミット型タームローン導入(03/9月)  
 連結ベース資金調達効率化

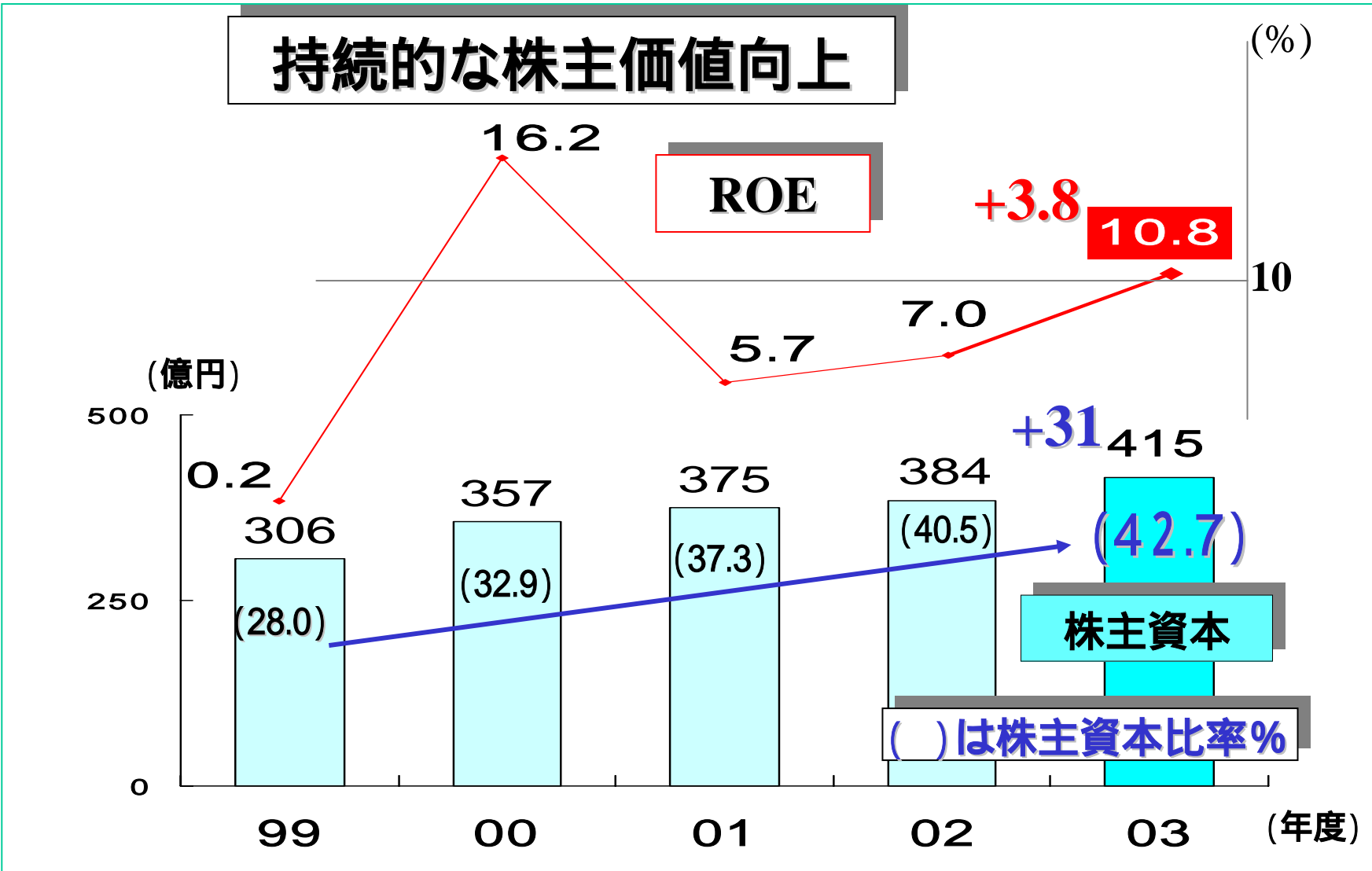


# 2-(5).総資本回転率(連結)



# 2-(6).ROE (連結)

持続的な株主価値向上



### 3. 成果の要因

- (1) グローバルに成長市場(携帯電話、ノートPC、デジタル家電、FPD)、半導体製造・工作機等市況の好転をキャッチ出来たこと
  
- (2) 経営革新の基本方針にもとづく諸政策が効果をあげてきていること

#### 基本方針

- ・グローバル化の推進
- ・生産革新—FF運動
- ・人材の有効活用・制度改革

## 3-1. 諸政策の例

### 変化にフレキシブルに対応できる構造

マルチプレイヤ化、フロー型人員構造

7Days24H操業可能体制

### 年功型 成果型賃金制度

業績連動型賞与

役割・行動基準ベースの新人事賃金制度導入

## 4.03年度トピックス

### (1) 中国内での事業体制強化

販売拠点: JAE上海設立(03.8スタート)

JAE-WJ第2工場新設(04.3操業)



### (2) 将来大型機(C-X、P-X)プログラム獲得に目処

航機事業

### (3) CS品質強化: クリーン環境での生産体制整備

生産現場のクリーン化と投資



# 4. 03年度ヒックス

## (4) グローバルにグループ会社ISO14001認証取得完了

SONY殿から海外含めてグリーンパートナーに認定される



## (5) 株主利益還元増配へ

1株あたり配当

上期2.5円 / 下期2.5 **4円** = 年 5 **6.5円**

## (6) NEC子会社から持分法適用会社へ

NEC議決権比率50.9 39.9%

# . 04年度及び今後の計画

## 1 . 基本方針&04年度業績予想ハイライト

## 2 . 事業戦略ハイライト

# 1. 基本方針

## 1-(1). 増収・増益軌道を持続させる



# (1)-2.売上、営業・經常・純利益、FCF(連結)

(単位:億円)

2004年度	上期	前同比	年度	前年比
売上	585	106%	1250	110%
営業利益 (率)	47 (8.0%)	109%	112 (9.0%)	111% (+0.1%)
經常利益 (率)	35 (6.0%)	115%	85 (6.8%)	118% (+0.5%)
純利益 (率)	20 (3.4%)	112%	53 (4.2%)	123% (+0.4%)
FCF	—	—	51	-26

# (1)-3.事業別売上、営業利益(連結)

(単位:億円)

2004年度	売上	前年比	営業利益 (率)	前年比
コネクタ	900	110%	137.7 (15.3%)	110% (0%)
システム	180	118%	7.1 (4.0%)	130% (+0.4%)
航機	150	100%	16.2 (10.8%)	104% (+0.4%)
その他	20	118%	-6.8	-
配賦不能費			-42.2	
計	1250	110%	112	111%

# (1)-4. 海外売上(事業別)

(単位:億円)

2004年度	上期	前同比	年度	前年比
コネクタ (売上比率)	163 (38.1%)	114% (+2.3%)	349 (38.8%)	114% (+1.3%)
システム機器 (売上比率)	19 (24.5%)	104% (+0.5%)	62 (34.3%)	173% (+11%)
航機他	8	105%	18	116%
海外売上計 (売上比率)	190 (32.4%)	113% (+1.9%)	429 (34.3%)	120% (+2.8%)

## 1-(2).重点戦略

CSを機軸に、基本を固める経営を着実に実行

### グローバル化の推進

グローバルマーケティング・技術開発力の強化

グローバル生産MAPの強化・有効活用

### 生産革新－FF運動

### 品質改革－QF運動

### 環境経営

### 人材の有効活用と制度改革

## (2)-1.グローバルマーケティング・技術開発力の強化

グローバルTOP企業のベストデザインパーツをめざす



# (2)-2.グローバル生産MAP有効活用・強化

世界のコンペチに負けない生産体制整う

中国国内市場

Asia

JAE Wuxi Co, Ltd.

JAE Wujang Co, Ltd.

JAE Hong Kong, Ltd.

JAE Taiwan, Inc

JAE Philippines, Inc.

ロ - コスト生産

JAE HQ  
関連会社  
HAE, YAE  
FAE, SAE

輸出/高付加価値

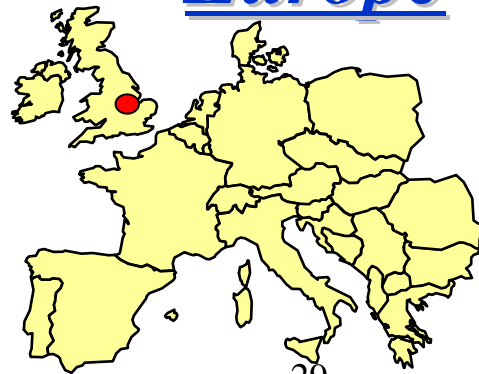
North America

JAE Oregon, Inc.

JAE Oregon, Inc.  
Tijuana Branch

Local市場

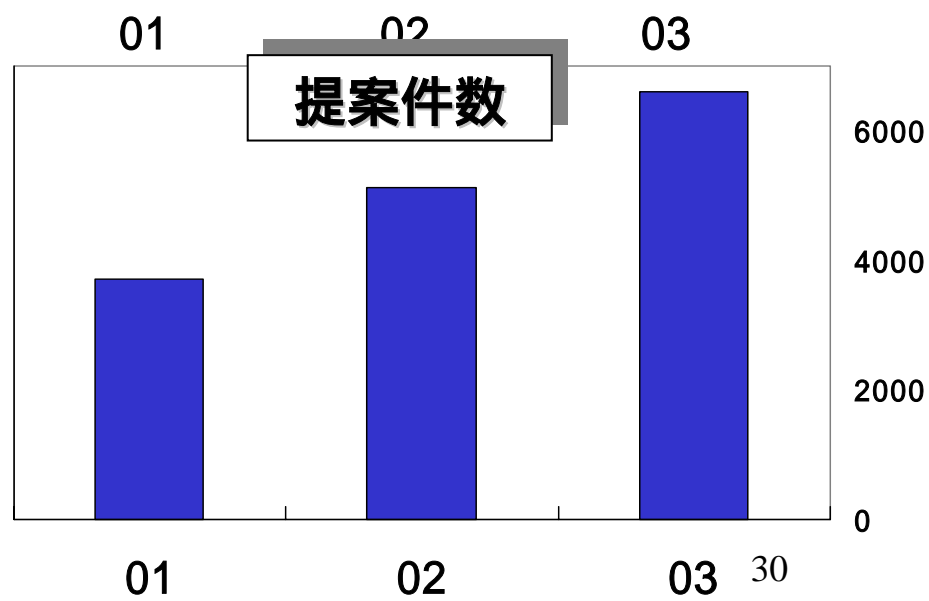
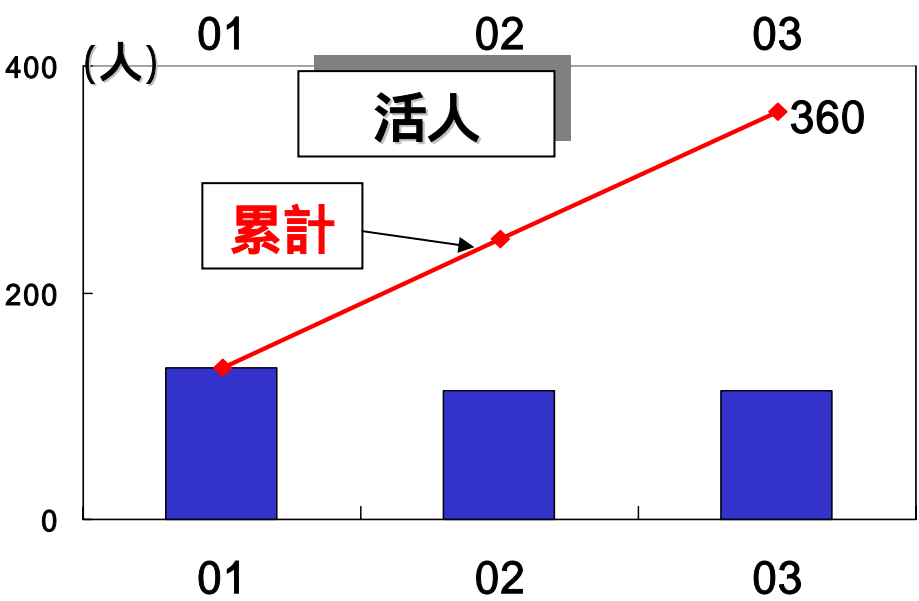
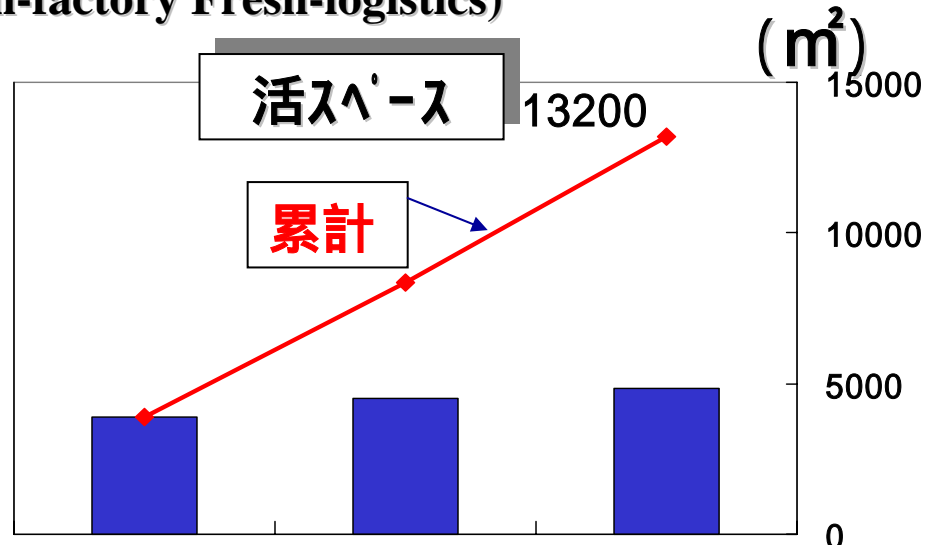
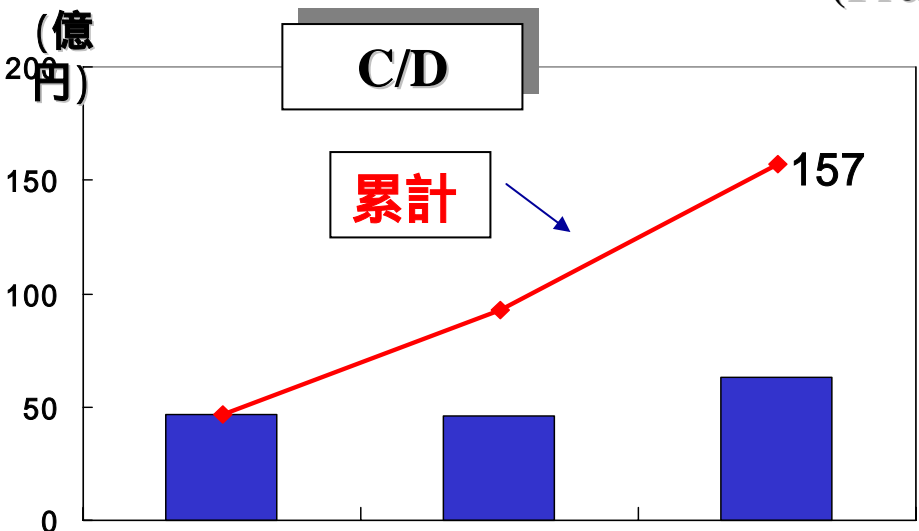
Europe



- Manufacturing & Marketing
- ▲ Manufacturing
- ▲ IPO
- Marketing

# (2)-3.生産革新—FF運動

(Fresh-factory Fresh-logistics)



## (2)-4.品質改革

特別プロジェクトとして推進

現場作業ホカミス撲滅、設計品質向上

得意先クレーム、失敗コスト半減めざす

QF(Quality-First)運動として、グローバルに展開

【スローガン】

品質は会社の顔です 心です

豊かな技術で 確かな品質

Quality begins with me

## (2)-5.環境経営

### グリーン調達

全グループ会社、協力会社を入れて推進

【環境アドバイザー】を育成・認定

5月 第1期37名(国内生産・物流子会社含む)  
協力会社対策指導(年200社目標)

調達改革(協力会社の絞込み)と連動させる

グループ協力会社1378社(2003年度末)50%絞込みめざす

## 2. 事業別戦略ハイライト

### (1) コネクタ

コネクタ市場規模予測

戦略4分野にフォーカス

グローバルマーケティング・技術開発力の強化

新技術で新事業へ挑戦

開発・生産体制強化

### (2) システム機器

# (1)-1.コネクタ市場規模予測

(単位: B \$)

(03 06年平均成長率)

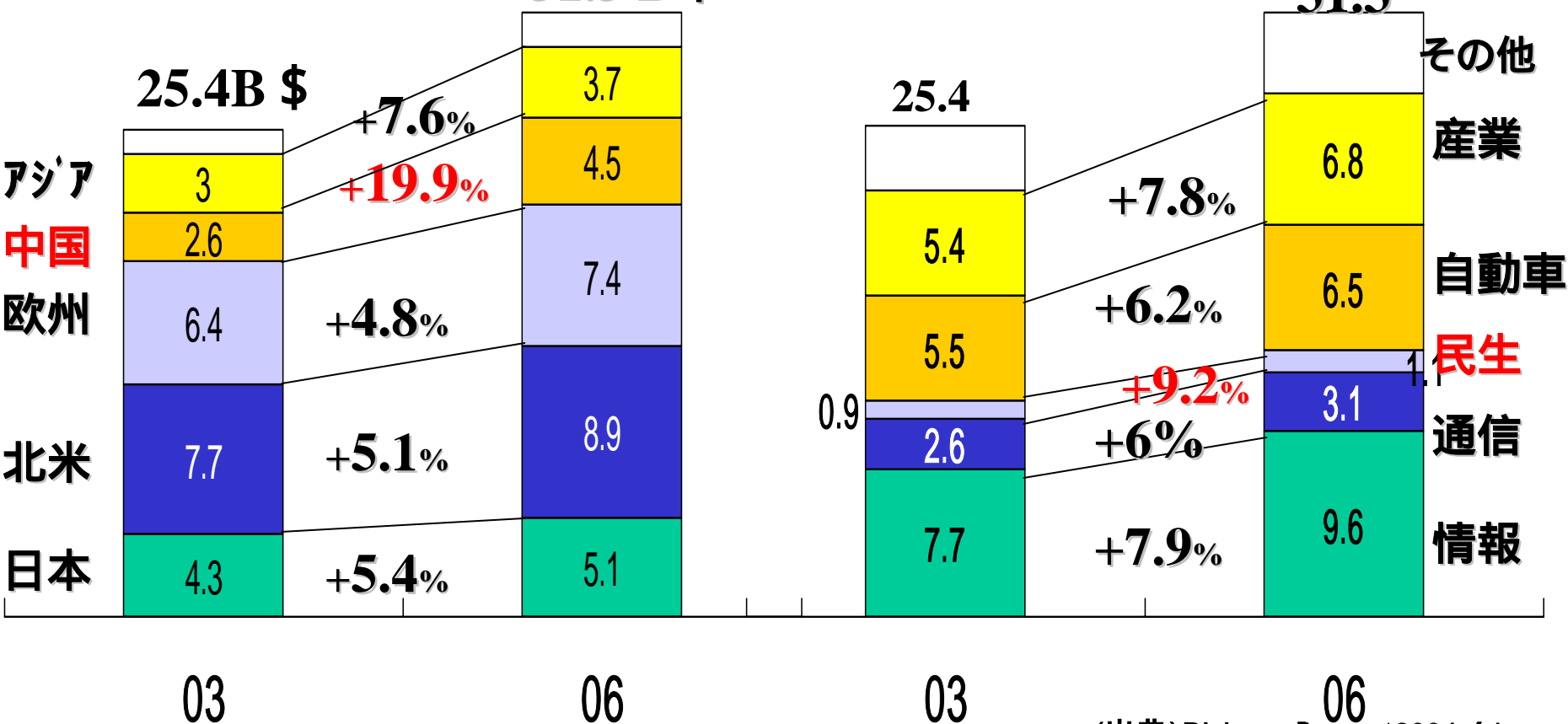
## 年平均成長率

7.3%

31.3 B \$

### 地域別

### 市場別



(出典) Bishop Report 2004 / 1

# (1)-2.重点戦略4分野にフオカス

コネクタ中期売上目標： 1,200億円超 / 月100億円

海外売上比率 50%をめざす

**情報(+10%超)**  
 Note - PC  
 サーバ  
 液晶モニタ

**通信(+10%超)**  
 2.5 - 3G携帯電話  
 メトロアクセス機器  
 3G基地局

**民生(+20%超)**  
 デジカメ  
 デジタルTV  
 セットトップボックス  
 DVD - R

**自動車(+20%超)**  
 安全系(エアバック、自動操縦など)  
 パワートレイン系(ECU)  
 情報系(ETC、ナビ)、車内LAN  
 ホデイ・インパネ系

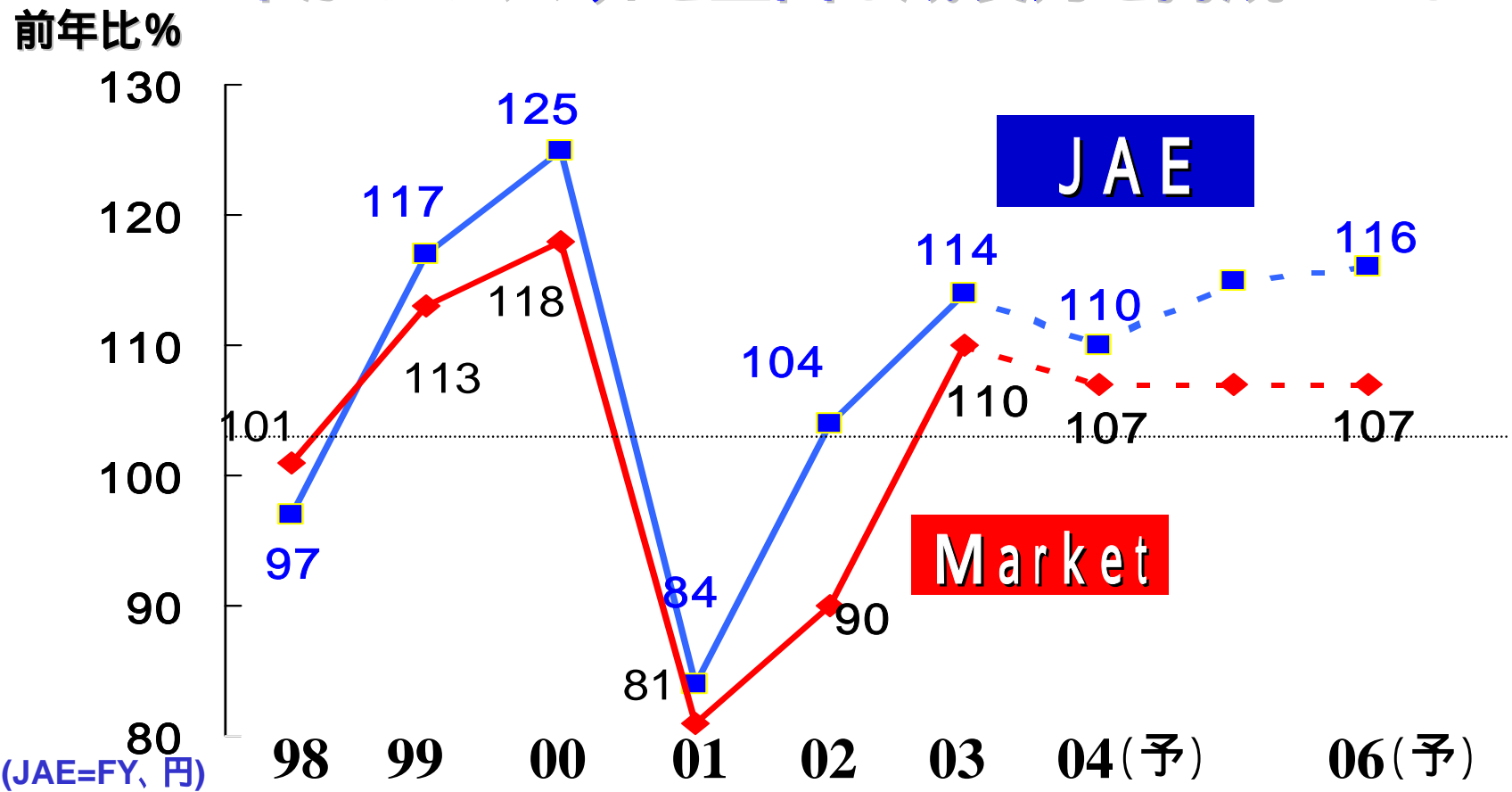
ブロードバンド化、モバイル化、  
 カーエレクトロニクス化の3つの潮流

( )内は03 06  
 年平均成長率

(1)-2-1

# コネクタ市場 vs 当社の成長力比較

99年からのマーケットを上回る成長力を持続させる



(JAE=FY、円)

(Market=CY、\$)

(出典) Bishop Report 2004 / 1

# (1)-3.PC、携帯電話、デジタル家電分野ニース

ブロードバンド化、モバイル化の潮流

地上波デジタル放送、3G携帯電話、ビキタスネットワーク時代

## 機器動向

デジタル家電

携帯電話

PC & Peripheral

画像高精彩・大型化、Flat Panel Display化(液晶、PDP,有機EL)

無線LAN化、カード化他、ネットワークアプリケーション機能の高度化

デジタルTV化

カラー化、カメラ付、TV受信

DVDはBlue-Lay化

バスの高速化

ビブプロテクション対応

ノートPC拡張機能拡大

ハードディスク搭載

**(1)-3-1 カーエレクトロニクス化の進展とニーズ**

**カービの進化**

**環境対策エンジンの進展**

**情報通信系**  
 画像高速伝送車載へ  
 (GVIF/LVDS/TMDS)

**車内LAN化進展**

**パワートレイン系**  
 ハイブリッド車、燃料電池車

**標準インターフェース  
 化の動き**

**予防安全機能の充実化**

**電子化**

**安全系**

**ボディ・  
 インパネ系**

**電子の目**

タイヤ空気圧センサ  
 衝突防止センサ等

**【CAN】他**

ドア、電動シート、ライト、メータ等

(1)-3-2

# 差別化商品・技術開発戦略

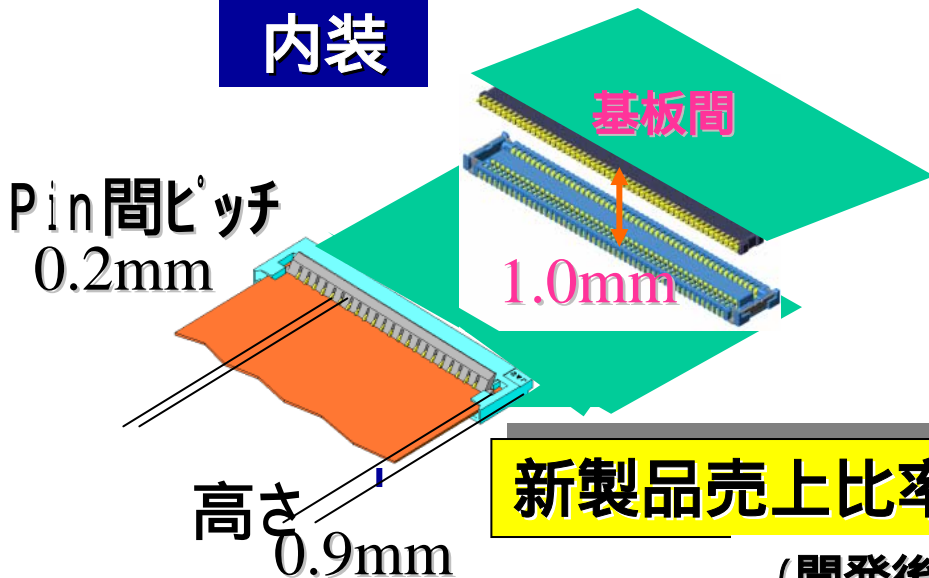
## 注力分野とターゲット

小型・薄型化、高密度、高速伝送、微細化

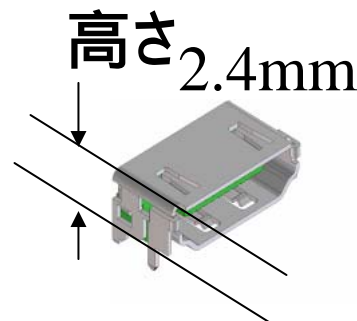
ピッチ 高さ 基板間  
 内装用: 0.2 0.9 1.0  
 I/O : 0.4 2.4

I/O : 5Gbps以上  
 B-B : 10Gbps以上  
 (LVDS, HDMI, PCI Express)

内装



I/O



新製品売上比率40%台持続

(開発後3年間)

(1)-3-3

# 技術的な強み

## 高速伝送設計で他社と差別化

### 〈差別化実現の3つのポイント〉

- スーパーコンピュータのCPUやストレージの接続で培った技術を水平展開
- シミュレーション技術の徹底活用による高信頼性の確保
- デジタルブロードバンド時代のノイズ問題に対するソリューションの提供

### 次世代デジタル機器の世界標準規格が当社提案を採用

#### ◆HDMI規格(03/4) (デジタルTV)

(High Definition Multimedia Interface)  
コピープロテクト機能をもったインターフェース規格。ソニー、松下、東芝、フィリップスなど7社が参加するクローズドな規格

#### ◆PSWG/SPWG規格(03/1、01/9) (液晶パネル)

(Panel Standardization ワーキンググループ、Standard Panel WG)  
高精細・大型液晶のインターフェース規格。  
PSWGには三星、LG、DELL、AUO、HP、IBM、JAEなどが参加

# (1)-5 . 新技術で新事業への挑戦

## 【微細化 ( $\mu$ ) & 低接触圧接続】の世界を拓く革新技術

### f - CONNECT

ユーザーの小型化、軽量化、高機能化の要求に応えかつ、さらなる設計の自由度を提供する当社独自のソリューション

【新発想のコネクション構造を生産プロセスイノベーションにより実現】

#### CONTACT

従来の銅材・プレス・メッキ工程をスパッタ方式で実現

#### 絶縁材

従来のプラスチック成型工程をフィルムで実現

### 微細化対応領域

- ・ Flat 厚さ60  $\mu$  (従来1ミリ)
- ・ Flexible フレキシブルプリント配線板  
よりも強い曲げ強度を保有
- ・ Fine ピッチ70  $\mu$  (従来0.3ミリ)

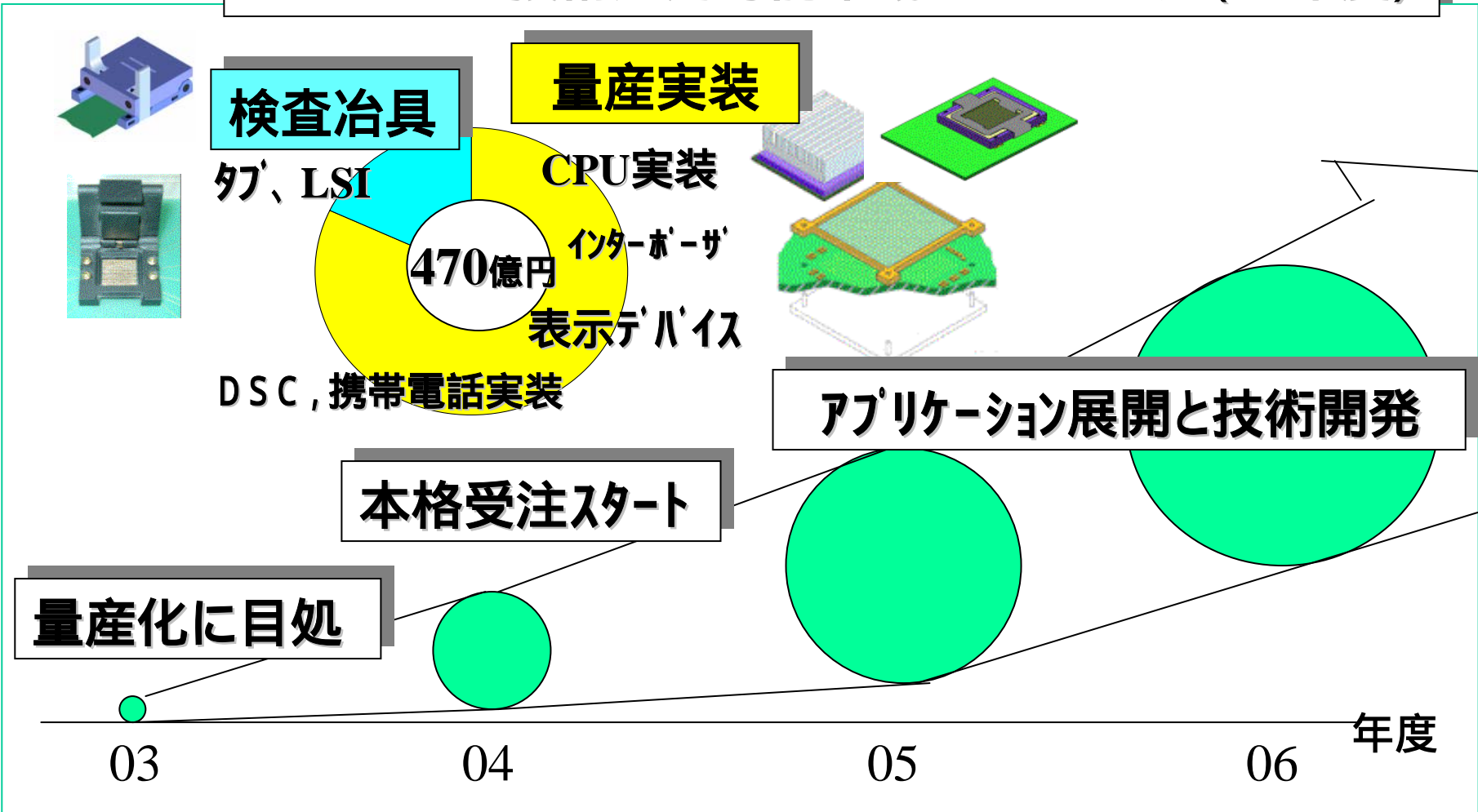
### 低接触圧

40g 2g / pin

(1)-5-1

# 事業化に目処をつける

f-connect技術適用可能市場ポテンシャル(04年度)



# (1)-6.コネクタ事業の生産技術・生産力強化

## (1)-6-1.生産技術力強化

### 開発L/T短縮

3次元CAD/CAM化(2006年までに完了)

CAD端末、CAM対応加工機増設、教育、運用ソフト開発  
HAEで新規にモールド金型生産開始  
体制増強(投資、人員)

7Days24H操業体制 L/T半減めざす(FAE、HAE)

### 微細化、安定品質の確保

自動画像認識検査装置の拡大(2006年までに完了)

部品加工、組立機械装着率100%化(対象機械)

## (1)-6-2.生産力強化

### 自動車市場向け生産体制強化

自動車市場拡販成果刈取り期へ

自動車市場向け生産MAP見直しと体制強化

国内、JAE-OR, JAE-PH

### JAE-WX(無錫)増強

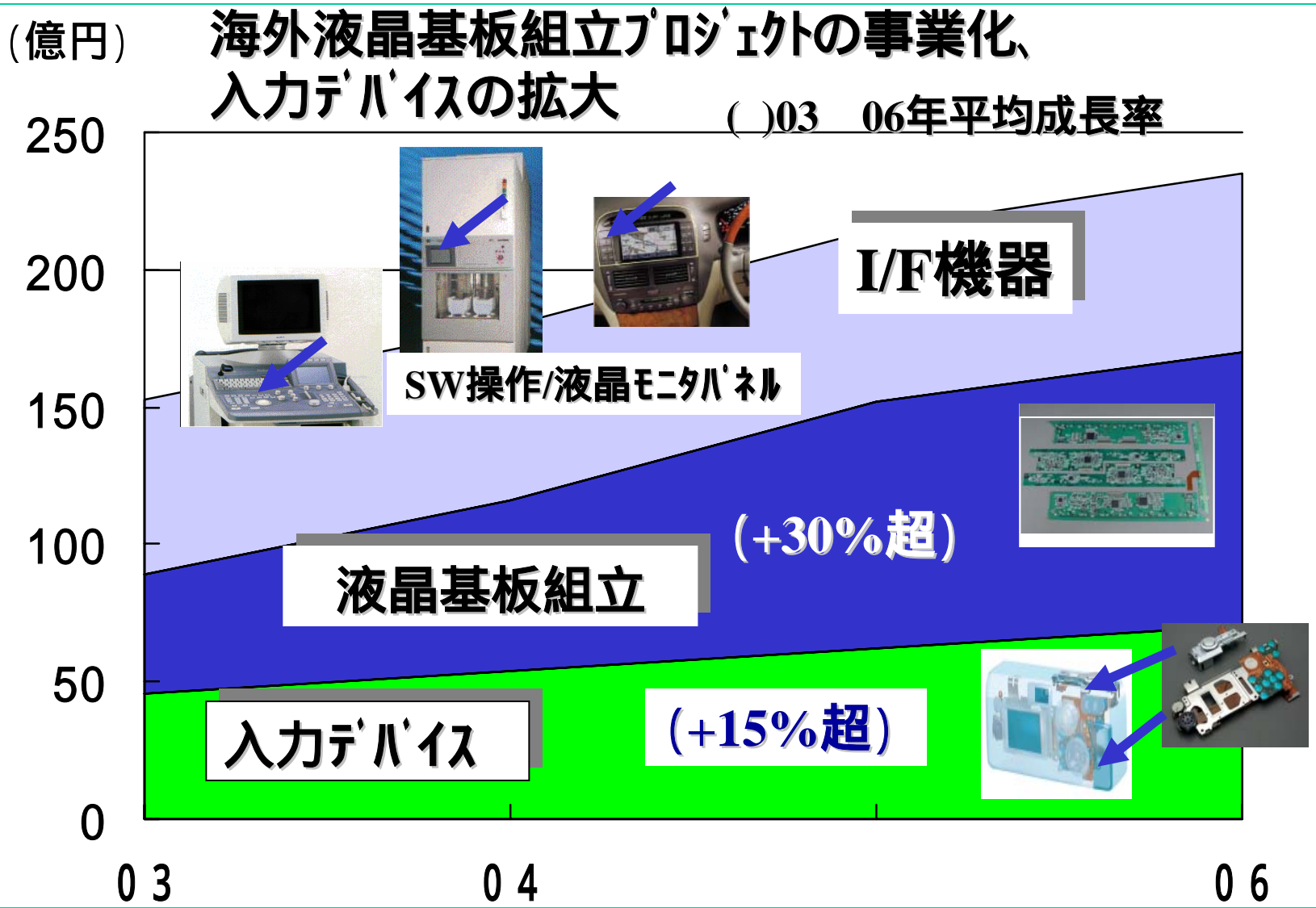
お客様の中国生産調達ビジネスが拡大

工場増設へ

## 2. 事業別戦略ハイライト

### (2) システム機器

# (2).システム機器事業戦略ハイライト



# 中期フィナンシャルターゲット

## 早期実現をめざし経営改革を推進

FY	01	02	03	04(予)	中期ターゲット
売上高(億円)	1,026	1,055	1,136	1,250	1,600
売上高伸び率 (%)	-14.8	2.9	7.6	10	+10% (年平均成長率)
営業利益率 (%)	5.1	6.2	8.9	9.0	10%以上
FCF(億円)	69	94	77	51	年平均 70億円以上
ROE(%)	5.7	7.0	10.8	12.4	15%

ご静聴、

ありがとうございました。

夢と未来を技術でひらく

航空電子

 日本航空電子工業株式会社

#### < 注意事項 >

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下JAEと総称します)の計画,戦略および業績見通し・目標は2004年4月22日現在の予測・目標であって,リスクや不確定な要素を含んでおります。

本資料に記載されている目標は予想ではなく,将来の業績に関する経営陣の現在の予想を反映したものではありません。むしろ,経営陣が事業戦略の実行を通じて達成しようとする目標であります。

実際の業績は,様々な要因により,見通し・目標等と大きく異なる結果となりうることを予めご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としてはJAEの事業領域を取り巻く日本・欧米・アジア等の政治・経済情勢,市場におけるJAE製品(ソフト製品を含む)に対する需要変動,競争激化による価格下落圧力,および競合各社に打ち勝ち供給し続ける能力,海外市場における事業拡大能力,事業活動に関する法規の変更やその不透明さ,潜在的な法的責任,為替レートなどがありますが,これら以外にも様々な要因が有り得ます。世界経済の悪化,世界の金融情勢の悪化,国内外の株式市場の低迷などにより,実際の業績等が経営目標その他の見通しと異なる結果となる可能性もあります。将来予測に関する記述は,その日現在のものであることをご承知おきください。

新たなリスクや不確定要因は随時発生することが明らかですが,その発生や影響を予測することは不可能であります。また,リスクや不確定要因がある為,将来予測に関して記述されている内容が実際には起こらない場合もあります。これらの記述に全面的に依拠することの無きようお願いいたします。